

＜教育と研究の分離＞

◇平成14年度大学改革

帯広畜産大学は、平成16年度の法人化に先立ち、14年度に学科の改組と教育研究組織、教育カリキュラム、大学運営体制の改革を行った。

それまでの4学科のうち、獣医学科以外の3学科を統合して「畜産科学科」を設置した。それ以前の学科講座制度では教育組織と研究組織が一体となった学科縦割りの教育研究体制がとられていた。学科を改組して学科の枠組み自体を広げるとともに、「教育と研究のゆるやかな関係」を構築して、教育組織と研究組織それぞれの独自性を高めた。研究組織には教員が所属し、大きく、ゆるやかな講座に改組して、研究の自由度と流動性を高めた。教育組織には学生が所属し、専門教育ユニット制をとった。

教育組織と研究組織との間で必要な調整を行うとともに、教員の授業改善の支援、学生の修学支援、生活支援などを行い、教育カリキュラムの企画や学部教育の実行に責任を持つ組織として「学部教育センター」を設置した。

全学共通の教育に重点をおいた「アドバンス制」の教育システムを導入した。アドバンス制では学部教育を基盤教育、共通教育、展開教育の3つの教育分野に分け、入学直後は基盤教育、共通教育を中心に学習し、学年が進むにつれて展開教育へとウエイトを移す。

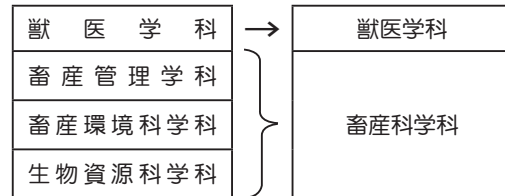
◇平成20年度大学改革

学部・大学院を通じた一元的な教員所属組織「研究域」を創設し、学部・研究科を教育組織として位置づけた。「研究域」は、教育研究を推進するために必要な領域で区分する「部門」によって構成する。教員の研究活動は原則として部門を単位として行い、学部・大学院の教育を担当する教員は、研究域に所属して「学士課程教育」「修士課程教育」「博士課程教育」の各課程教育に参画する。

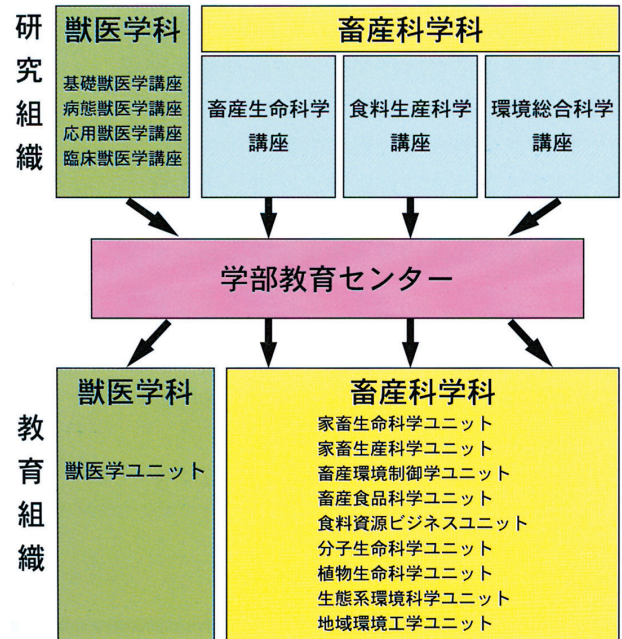
獣医学科・畜産科学科の2学科体制から獣医学課程(6年制)・畜産科学課程(4年制)の2課程制に移行し、全教員参加型の教育プログラムを構成した。

畜産学部では、農業・畜産・獣医学関連の幅広い知識を持った専門職業人を育成する。学部の専門教育であるユニットを改編するとともに、カリキュラムを大幅に見直した。

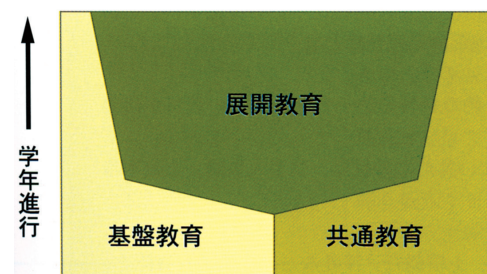
平成14年度学科改組



研究組織と教育組織



教育のアドバンス制



平成20年度創設の研究域

- ◎畜産衛生学研究部門
 - ・動物医科学分野
 - ・食品衛生学分野
 - ・環境衛生学分野
- ◎臨床獣医学研究部門
 - ・診断治療学分野
 - ・予防獣医療学分野
- ◎基礎獣医学研究部門
 - ・形態機能学分野
 - ・病態予防学分野
- ◎畜産生命科学研究部門
 - ・家畜生産科学分野
 - ・環境生態学分野
- ◎食品科学研究部門
 - ・加工・利用学分野
 - ・機能科学分野
- ◎地域環境学研究部門
 - ・農業経済学分野
 - ・地域環境工学分野
 - ・植物生産学分野
- ◎人間科学研究部門
 - ・人文社会・体育学分野
 - ・言語科学分野

食の安全確保にかかわる高度専門職業人の養成を目指して、大学院教育の改編を実施した。畜産学研究科では、平成16年度の畜産衛生学専攻修士課程の設置を皮切りに、平成18年度には、我が国で初めての獣医学分野と畜産学分野の融合領域による博士課程となる、畜産衛生学専攻博士課程を新設した。畜産衛生学専攻以外の修士課程でも、平成22年に改組した。

平成20年度からの課程とユニット

獣医学課程（6年制）	獣医学ユニット
畜産科学課程（4年制）	生命科学ユニット 家畜生産科学ユニット 食品科学ユニット 環境農学ユニット 農業経済学ユニット 畜産国際協力ユニット



畜産衛生学専攻

平成15年以降の教育組織の変遷

年 度	畜産学部	大 学 院 (連合大学院)	別科
2003 (平成15)	獣医学部	畜産学研究科	別科 (草地畜産専修)
2004 (平成16)	獣医学部	畜産学研究科	別科 (草地畜産専修)
2005 (平成17)	獣医学部	畜産学研究科	別科 (草地畜産専修)
2006 (平成18)	獣医学部	畜産学研究科	別科 (草地畜産専修)
2007 (平成19)	獣医学部	畜産学研究科	別科 (草地畜産専修)
2008 (平成20)	獣医学部	畜産学研究科	別科 (草地畜産専修)
2009 (平成21)	獣医学部	畜産学研究科	別科 (草地畜産専修)
2010 (平成22)	獣医学部	畜産学研究科	別科 (草地畜産専修)